



一月(大) 睦月 妻宿

一月五日小寒の節より
月命癸丑六白金星の月
暗剣殺西北方

旧 十一月大
十二月大

日	曜日	干支	九星	行事	旧暦	六輝	中段	其宿	下段	日出入	月出入	満潮	干潮
1日	月	みづのとみ	三碧	○元日、年賀、初詣、歳旦祭、修正会、初巳、天一天上、旧曆十一月大	十五	先勝	とる	危	万よし	6.51	16.38	15.57	16.38
2日	火	きのえうま	四緑	○望一、二時二四分、皇居一般参賀	十六	友引	やぶる	室	ちいみ	6.51	16.39	17.00	15.57
3日	水	きのとひび	五黄	福岡宮崎宮玉せせり	十七	先負	あやぶ	壁	大みやう	6.51	16.40	16.40	16.39
4日	木	ひのえさる	六白	官庁御用始め	十八	佛滅	なる	奎	母倉	6.51	16.41	16.41	16.39
5日	金	ひのと	七赤	小寒一八時四九分、初水天宮	十九	大安	なる	婁	●	6.51	16.42	16.42	16.39
6日	土	つちのえいぬ	八白	六日年越し、公現祭、東京消防出初式、高崎だるま市	廿	赤口	おさん	胃	ぶく日	6.51	16.42	16.42	16.39
7日	日	つちのと	九紫	七章、人日、初亥、不成就日、福岡太宰府天満宮うそ替え・鬼すべ	廿一	先勝	ひらく	昂	ちう日	6.51	16.43	16.43	16.39
8日	月	かえね	一白	成人の日、東京島越神社とんど焼、初子、初葉師、一粒万倍日	廿二	友引	とづ	畢	月とく	6.51	16.44	16.43	16.39
9日	火	かとうし	二黒	○下弦七時二五分、学校始業、宵えびす、京都西本願寺報恩講(16日迄)	廿三	先負	たつ	觜	十し	6.51	16.45	16.45	16.39
10日	水	みづのと	三碧	十日えびす、初金毘羅、一一〇番の日、初寅	廿四	佛滅	のそく	参	大みやう	6.51	16.46	16.46	16.39
11日	木	みづのとう	四緑	鏡開き、歳開き、初卯、一粒万倍日	廿五	大安	みつ	井		6.51	16.47	16.47	16.39
12日	金	きのえ	五黄	やぶ入り、養日、えんま詣り、真宗本派親鸞聖人忌	廿六	赤口	たいら	鬼	大みやう	6.51	16.48	16.48	16.39
13日	土	きのと	六白	土用一三時二七分、○朔一、一時一七分、秋田太平山三吉神社梵天祭、旧十二月大、防災とボランテイアの日、旧十二月大	廿七	先勝	さだん	柳	大みやう	6.51	16.49	16.49	16.39
14日	日	ひのえうま	七赤	十四日年越し、大阪四天王寺どやどや、仙台とんと祭、三隣亡	廿八	友引	とる	星	神よし	6.50	16.50	16.50	16.38
15日	月	ひのとひび	八白	小正月、小豆がゆ、不成就日	廿九	先負	やぶる	張	くま日	6.50	16.51	16.51	16.38
16日	火	つちのえさる	九紫	やぶ入り、養日、えんま詣り、真宗本派親鸞聖人忌	卅	佛滅	あやぶ	翼	神よし	6.50	16.52	16.52	16.38
17日	水	つちのと	一白	土用一三時二七分、○朔一、一時一七分、秋田太平山三吉神社梵天祭、旧十二月大、防災とボランテイアの日、旧十二月大	朔	赤口	なる	軫	●	6.50	16.53	16.53	16.38
18日	木	かえいぬ	二黒	初観音	二	先勝	おさん	角	百事吉	6.49	16.54	16.54	16.38
19日	金	かのと	三碧	大寒一二時〇九分、二十日正月、一粒万倍日、八せん始め	三	友引	ひらく	亢	大みやう	6.49	16.55	16.55	16.38
20日	土	みづのえね	四緑	初大師	四	先負	とづ	氐	くま日	6.48	16.56	16.56	16.38
21日	日	みづのとうし	五黄	默阿弥忌、不成就日	五	佛滅	たつ	房	十し	6.48	16.57	16.57	16.38
22日	月	きのえとら	六白	一粒万倍日	六	大安	のぞく	心		6.48	16.58	16.58	16.38
23日	火	きのと	七赤	一粒万倍日	七	赤口	みつ	尾	神よし	6.48	16.59	16.59	16.38
24日	水	ひのえ	八白	初地藏、東京奥鴨とげぬき地藏尊大祭、臘日、旧こと納め、旧針供養	八	先勝	たいら	箕	大みやう	6.47	17.00	17.00	16.38
25日	木	ひのと	九紫	○上弦七時二〇分、初天神、東京亀戸天神うそ替え、法然上人忌、文化財防火デー、道元禪師誕生会、天理教本部春季大祭、三隣亡	九	友引	さだん	斗	母倉	6.46	17.01	17.01	16.38
26日	金	つちのえうま	一白	国旗制定記念日、小田原道了尊大祭、奈良若草山焼き	十	先負	とる	牛	神よし	6.45	17.02	17.02	16.38
27日	土	つちのひび	二黒	初不動、庚申	十一	佛滅	やぶる	女	大みやう	6.45	17.03	17.03	16.38
28日	日	かえさる	三碧	不成就日	十二	大安	あやぶ	虚	大みやう	6.44	17.04	17.04	16.38
29日	月	かのと	四緑	不成就日	十三	赤口	なる	危	●	6.44	17.05	17.05	16.38
30日	火	みづのえいぬ	五黄	不成就日	十四	先勝	おさん	室	めつもん	6.43	17.06	17.06	16.38
31日	水	みづのと	六白	○望二二時二七分、八せん終り	十五	友引	ひらく	壁	くま日	6.42	17.07	17.07	16.38

冠婚葬祭とは、わが国古来の礼法で、加冠、婚礼、葬礼、祭祀の四つを略していつたものを略す。即したものを中心にして、そうでない一般的なものは適宜に配置した。

〔冠〕これは、加冠(戴冠)の儀という男子の元服を代表にしたもので、人間が成長し、人格が形成されていく段階において行われ、数々の儀式的総称である。

一月の冠婚は「成人式」(二月第二月曜日)に極まる。これは、法的に新しく社会の一員に加わる満二十歳になった青年男女が、自覚してめでたく巣立つことを祝福する日として国民の祝日となっている。

〔婚〕婚姻、婚礼は、季節にほとんど関係がなく、寒中であれ暑中であれ、日柄さえよければ挙式するならばであるが、農家では比較的ひまな一月に式を挙げる人が多い。

〔葬〕生者必滅、たとえ王者といえどもこれを避ける者はなく、そしてその命尽きるとき、季節を問うものでないことはもちろんである。従って葬儀そのものは、一月に大きな関係はないが、一月七日までのいわゆる「松の内」は仏式では葬儀を差し控えるならわしである。

〔祭〕暦とは切っても切れないのが祭祀、遠い祖先から伝わった「お祭り」の年中行事である。

年の初めの「元日」。一年間の出発点として、数々の風習が伝承されています。初詣、年始回り、門松、鏡餅、若水、屠蘇、雑煮、おせち料理……等、地方により家庭により、多少の差異はあるが、ほとんどの人がこの日を祝う。

三日までを「三が日」といいます。その間には「初詣」の行事が行われ、習慣による「七草がゆ」については、冬期のビタミン補給だとする合理的解釈もある。